

教育目標『ふるさとを愛し 自ら考え たくましく生きる児童の育成』

～思いやりのある子・進んで学ぶ子・たくましい子～



松小だより

令和7年6月26日(木)

学校通信 第13号

発行 学校長

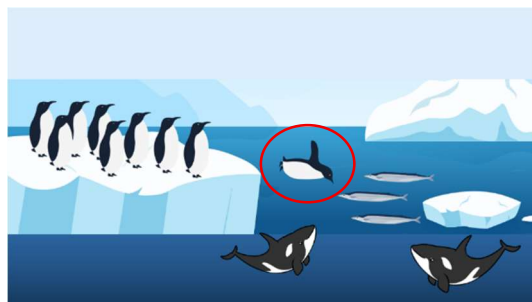
電話 027-393-1521

※個人情報の取扱にご留意ください。

〈 松井田小ホームページ <http://www.annaka.ed.jp/shin-matsuida/> 〉

ファースト・ペンギン・スピリットで1学期を乗り切ろう！

1学期も残すところ約3週間となりました。新しい仲間との出会いから約2か月半、細野地区の児童も新しい学校生活によりやく慣れてきた頃と思います。5月には4/25(金)に開催したPTA・教育振興会総会で投映する予定だったスライドショーを本校ホームページで限定公開しましたが、ご視聴いただきましたでしょうか。「学校長から子供たちと保護者の皆様へのエール」と題してお送りしましたが、スライド最後のメッセージ「どんなに環境を整えても、最後は子供たち自身が自分の足でしっかりと大地を踏みしめ、前を向いて歩いていかななくてはなりません。」には、校長としての思いを込めました。



「ファースト・ペンギン・スピリット」という言葉をお聞きになったことがあるでしょうか。ペンギンは群れて行動する習性がありますが、海の中ではシャチやアザラシなど天敵が待ち構えている中、えさを求めて勇気をもって最初に海に飛び込むペンギンがいます。このファースト・ペンギンは、自分が食べられてしまう危険もありますが、運がよければたらふくえさを食べることができます。こうした勇氣ある行動をアメリカでは「ファースト・ペンギン・スピリット」と呼んでいます。「チャレンジ精神」ということですね。本校では昨年の朝礼で児童に呼びかけ、「一步を踏み出す勇氣」を奨励してきました。ランド・デザインにもこの言葉を取り上げ、本校の目指す「たくましい子」へと成長を促しています。

昨年の夏にはパリ・オリンピックが開催され、世界のアスリートたちがたくさんの感動の名場面を見せてくれました。そのシーンも織り交ぜながら、2学期の始業式では校長講話の中で「一步を踏み出す勇氣」について全校児童に話をしました。その後、運動会や鼓笛隊 Smile Band の最終公演、人権週間の取組など、本校の児童がすばらしいファースト・ペンギンとしての姿を見せてくれたことはご承知のとおりです。細野地区から新しい仲間たちを迎えたいま、再度この時に投映したスライドショー「四つ葉のクローバーの教え」を本校ホームページにて限定公開します。これから先、様々な試練が子供たちには待っていると思いますが、小学校時代には、卒業までに「何事も自分で考え自分で決め、自分の足でしっかり前へ歩き始めようとする気持ち」を身に付けることが、変化の激しい社会を生きていくために大切なことだと思います。弱気になっている児童、一步を踏み出す勇氣がもてない児童にはぜひ視聴していただきたいコンテンツです。子供たちには、ぜひ「ファースト・ペンギン・スピリット」をもって1学期を乗り切ってほしいと思います。もちろん2学期以降も・・・。

過去動画「四つ葉のクローバーの教え」(R6.8.30 公開)を再公開します！

昨年度、2学期始業式の校長講話で投映したスライドショーを6/24(火)～7/13(日)まで本校ホームページ「週末 Archives」で再公開します。人がたくさん通ったり車が通ったりして、踏まれたり折られたりしやすい場所で見つかることの多い四つ葉のクローバー。クローバーの葉は、小さい赤ちゃん葉のときに踏まれたり傷つけられたりすると2つに分かれてしまうことがあります。傷を治そうとしてたくさん栄養を出すので、2つに分かれてしまった葉がそれぞれ大きく育ち、四つ葉になるといわれています。見つけるとよいことがあるといわれる四つ葉のクローバーは、困難から復活を遂げた証なのです。2024 パリ・オリンピックの名場面や、本校のファースト・ペンギンの姿を通して「一步を踏み出す勇氣」について児童と一緒に考えました。

ステップ・アップ週間実施中！

勉強中です



6/23（月）からステップ・アップ週間が始まっています。お子様の学習への取組の様子はいかがでしょうか。読書も同様ですが、一日に長時間取り組むことができるのはもちろん素晴らしいことですが、ただ長い時間をかければよいというものではありません。漢字の学習一つとってみても以下のとおりハッとさせられることもあり、学年による発達段階も考慮しつつ自分流の効果的な学習方法を見つけることも大切な視点です。引き続き家庭学習の様子を見守っていただき、お子様の学習が単純な作業になっていないか声をかけてあげてください。取組後のステップ・アップ・カードを読ませていただくことを楽しみにしています！

漢字は繰り返し書いて覚えることが王道の学習方法。とはいえ、繰り返し書く反復練習も、やりすぎてしまえば逆効果となるため注意が必要です。反復練習をしすぎると、意識的な学習ではなく、ただ記号を写すだけの作業となってしまいます。大人であっても、単調な作業を繰り返していると思考停止に陥ったかのような感覚になりますよね。漢字の反復練習が作業になってしまうと、脳の働きも停止しがちで、記憶に定着させることも難しくなってしまいます。反復練習は、3回から5回程度で十分です。漢字そのものも反復練習するより、その漢字を使った熟語を調べて書いてみたり、例文を作ってみたりすると、記憶の手がかりとなり、しっかり定着させやすくなるでしょう。



漢字が書けるようになることを重視するあまり、漢字の意味や成り立ちの確認がなおざりになっていませんか？漢字の成り立ちや部首、意味などを押さえていないと、漢字をただの無味乾燥な記号のように感じてしまいます。それでは、なかなか記憶に定着させることはできません。脳に印象づけ、記憶に焼き付けるための「手がかり」を押さえていないことになるからです。たとえば「化」という漢字は、人を表すにんべんと、人が逆さまになった姿を表す部分からできています。人が姿をかえた様子を表しており「化」という漢字になっているのです。このように成り立ちを押さえると漢字が本来持つ意味をつかめます。さらに「変化」「化物」など、その字を使った熟語も知ることで、その漢字の持つニュアンスも押さえられます。それにより、漢字を覚えやすくなることはもちろん、豊かな言語感覚も養うことができるでしょう。

漢字学習は一気にやらずに分散させるのが効果的です。漢字など覚える学習は、つい一気に詰め込んでしまいがちですが、それでは思うような学習効果が得られません。覚えるべき漢字をいくつかに分け、他の学習も間に挟みながら分散させて学習する方が、一気に学習するよりも定着が高まるようです。その理由は、単調になりがちな漢字学習にメリハリをつけ、適度に気分転換も行いながら取り組めるためと考えられます。 「Benesse 教育情報」ベネッセ教育総合研究所 web サイトより

朝礼（表彰）を行いました！

たくさんの賞状や盾、トロフィーを預かっていましたが、6月25日（水）の朝礼にてようやくお渡しすることができました。これまで受賞者につきましては随時学校通信にて紹介してきましたが、伝達が遅くなり申し訳ありませんでした。今回は、剣道、陸上、バレーボールで優秀な成績を収めた児童のべ23人に賞状等をお渡ししました。緊張しながらも、時々笑みを浮かべて嬉しそうな表情を見せていました。受賞した児童のみなさん、おめでとうございます！



各種団体等からの表彰（伝達）について

本来、学校で行う表彰については校内行事（書き初めなど）、体育行事（市や県主催の陸上など）、教育委員会や自治体主催の作品募集等（絵画など）の受賞者に対して行うのが基本です。本校では私の赴任前から社会教育団体（スポーツなど）、地域・子育て連行事（かるた大会など）、検定や資格等、学校外の活動についても保護者からの求めに応じて朝礼で表彰（伝達）してきました。学校外で受賞された場合、まずは学校での表彰の必要性を各団体等でご検討いただき、必要とあらば学校にお申し出ください。校内で協議の上、関係児童にお渡しします。